



令和5年1月21日(土)

## 第7回近現代部会を開催しました

第7回近現代部会では、各委員の資料調査の進捗状況についての報告と、資料編の凡例および市町村要覧類の選別などについて協議を行いました。

凡例については、常用漢字や固有名詞の扱い、年号表記などは市史全体の基準となることから、遠野市史編さん委員会で協議する必要があるという意見が出されました。

また市町村要覧については、旧町村の明治時代から戦後までの状態のよいものを、DVDに収録して資料編に付属させる予定ですが、資料がない町村については、今後市民に情報提供を呼び掛けていくこととしました。

その他、分野が重複する史料をどの項目で扱うかや今後のスケジュールなどについても協議し、次回までに大まかなページ割や執筆要領案などを作成することを申し合わせました。



▲会議の様子

### 用語解説

\*市町村要覧…

自治体の人口や経済、産業、交通、教育などについて、資料や統計などを用いて要点をまとめた資料。明治時代から各自治体で作成され、年に1回程度発行される。

遠野市内で古いものでは、明治44年(1911)発行の鱒沢村勢要覧がある。



## 熊谷 常正

くまがい つねまさ

遠野市史編さん委員会 委員  
遠野市史編さん原始・古代・中世部会  
考古グループ長

編さん委員紹介

### Q1 出身地

一関市千厩町の生まれですが、盛岡に住んでもう45年です。

### Q2 所属

盛岡大学名誉教授

### Q3 専門分野

日本先史考古学(東北地方の縄文文化)

南部北上山地に産出する粘板岩系石材を用いた儀礼用の道具である石刀類について製作活動や流通、儀式での使われ方などを調べています。

### Q4 市史に関して今もっとも興味を持っていること

宮守の金取遺跡や綾織新田遺跡などの調査に関わってきました。遠野盆地にはユニークな遺跡がたくさんあります。市史では、これまでの研究成果を踏まえ、先史時代の遠野のユニークさを明らかにしたいと思っています。

### Q5 その他興味があること

岩手県の文化財保護の歩みについても興味を持っています。これまで伊能嘉矩らの活動についても、調べてきました。彼らの活動を通じて、“近代”という時代・体制の果たした役割や現在の評価についても考えています。





令和5年1月14日(土)、20日(金)、27日(金)

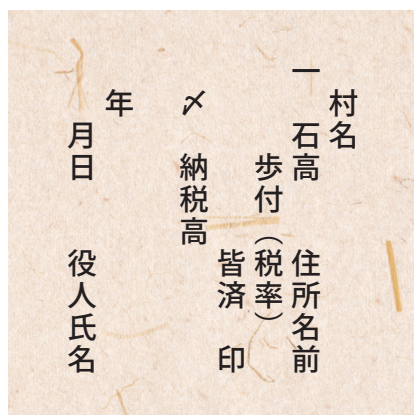
## 古文書講座「はじめての古文書」を開催しました

今年度の古文書講座は全3回の日程で開催し、のべ46人の方にご参加いただきました。1・2回目は講師の菊池秀男委員(原典・古代・中世・近世部会)が、千葉家文書の中の年貢差紙と「閉伊郡遠野志波郡佐比内産物改帳扣」を題材に、古文書の読み解き方について講義を行いました。

差紙は召喚状、ないしは伝達や命令を伝える文書のことです。江戸時代の遠野では以下のような様式で差紙が住民に配布され、年貢を払うと皆済の文字が書かれました。現代でいうと、税金の納入通知書兼領収証書です。



▲講座の様子(第1回)



◀年貢差紙の様式。皆済の文字は空いている場所に書かれるため、一定ではない。

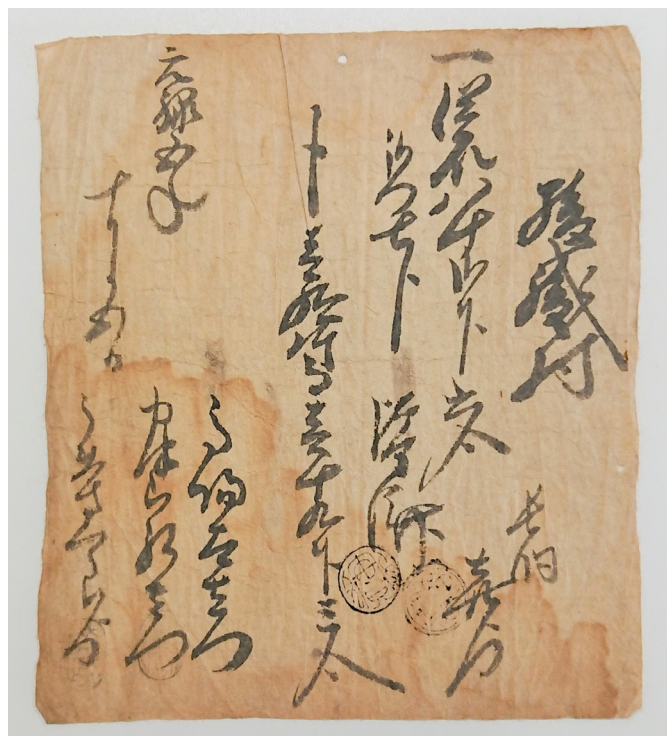
▼千葉家文書の年貢差紙のうち最も古い元禄5年(1692)のもの。右下に「長洞喜右工門」の名が見える。遠野市教委蔵。



▲参加者の発表の様子(第3回)

また従来とは異なる試みとして、3回目は参加者から発表者を募り、古文書からわかったことや興味を持って調べたことについて、6人の方に発表していただきました。

このうち菊池和子さんは「1間の長さはどれくらい?」というタイトルで、自宅の建物の1間の長さが建築年代によって違うことに気づき、実際に柱と柱の間を測ったり、記録を調べるなどして、時代によって1間の長さが違うこと、江戸時代でも対象物によって1間の長さが異なっていたこと、などを発表しました。これらの発表を通して、参加者の方々はもちろん当室職員も新しい気づきを得ることができた講座となりました。



市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。  
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

編集・発行 遠野市民センター市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号(遠野市立図書館・博物館内)

TEL:0198-62-2340 FAX:0198-62-5758